

「令和4年度伊達市ふれあい懇談会（霊山地域）」発言録

日 時：令和4年11月10日（木）

18時30分～20時20分

場 所：霊山中央交流館

市 長：説明「市長あいさつ、伊達市の5つのまちづくりについて」（要旨別紙参照）

【質疑応答】

災害復旧・防災・減災関連

■自主防災避難所の水道整備の補助について

市 民：市の施設でない先輩方が作った集会所が、自主防災組織にて第一避難所に指定している。その施設の水道（井戸）が枯渇して現在は水が出ない。水道を整備したいが年金暮らしの世帯が多いため、難しいとは思いますが補助をお願いしたい。

未来政策部長：全体的な経費のバランスがあり、公平に対応するため要望に応じることは難しいですが、町内会が自己負担にて対応していることは市としても認識しています。今後検討できるものについては、何に経費を使うか議論の中で方向性を決めたいと思いますので、ご理解願います。

農林業・商工業・観光関連

■小規模の基盤整備について

市 民：農産物PRの話が市長からあったが、霊山、月舘は過疎地域であり、担い手の不足に不安を感じる。農地所有者が集まって話し合いをすると、年金を受け取っている世代がほとんどである。農地だけでなく、霊山のすばらしい環境をどうやって次の世代に引き継いでいくか検討が必要である。小規模な面積でも市や国の補助が受けられるような仕組みづくりをお願いする。10年先の将来像を浮かべ、集落をどうやって維持するか基盤整備を願う。

産業部長：山野川地区に限らず、今ある遊休農地をどうするかといったことは非常に大きな課題ととらえています。中山間地の直接支払いや多面的機能の部分で地域の方々が協力し、耕作状態を守っていただければと思います。10年先の将来像については、中々明るいイメージは見えてきませんが、産業部と農業委員会が進めている「人・農地プラン」といった計画を各地区で話し合っていくことで、だれが担っていくのか明確化をしているところです。ある程度整備し集約していく上では基盤整備も一つの大きな条件と考えます。県、国につなげ市としても農地を守っていく体制を整えたいと思います。

市 長：山野川は中山間地域なので、10ヘクタール以上の面積があれば経営事業で実施ができます。85%が担い手に農地集積すれば工事に関する地元負担がない制度

もあります。事務経費はかかりますが、これらの制度を利用して皆さんの100%合意があれば工事ができます。基盤整備ができれば耕作放棄地での耕作が容易になり、担い手も張り付きますので、それらを皆さんと一緒に頑張っていきたいです。

■働く場所の確保について

市 民：大型商業施設や工業団地の造設により、雇用先が増えることは大変ありがたい。しかし、非正規雇用社員だけでは不満が出てくるため、正規雇用社員が増えるよう行政が事業者と協議し、安心して市内で働くことができるようにしてほしい。

産業部長：雇用の中身が大切とのことでしたが、地元雇用はもちろんのこと、正規雇用を重点にお願いします。一方で、大型商業施設には限られた時間しか働けない子育て世帯などでも対応できるような多様な雇用形態もあります。労働条件、処遇の問題は今後、事業者と協議していきたいと思っています。

■新規就農者について

市 民：現実にどれだけの人が新規就農者として伊達市に来ているのか知りたい。地区ごとにも数がわかるのであれば知りたい。

産業部長：認定新規就農者の数は31世帯35人です。3年間での数であるため、その間に認定就農者になる方もいます。補助を受けずに農業を始める方もいるため、新規就農者数となると数は増えると思います。地域ごとの人数については資料を持参していなかったため、この場での回答は全体数のみでお願いします。

未来政策部長：補助制度を利用し移住した方は、令和3年度は20名です。補助制度は、県外からの移住等の条件があるため、県内での移住者数は含めていません。移住促進については、HPやSNSを利用し広く発信しています。東京に「カラフル」という常設移住相談窓口もあるため、委託している事業者が伊達市の紹介を盛んにしています。大型商業施設や工業団地造設により移住に関する企画が益々増えていきますので、力を入れて取り組みを進めていきます。

■鳥獣被害について

市 民：イノシシだけでなくサルがかなりの行動範囲を示している。石田地区にて被害が増大しており、地域振興のため被害に対して支援をいただけるか。被害のない作物もあるが、今後益々被害が増大していくものと思われるため支援いただきたい。

産業部長：遊休農地と合わせ、ここ数年の危機的課題ととらえています。ここ2年、豚熱というウィルスを持ったイノシシが一昨年は2,000頭、昨年は1,200頭と相当数出てきています。ニホンザルについても目撃情報含め、被害報告を梁川、月

館、霊山から受けています。去年のニホンザルの捕獲数は自治体の方々に協力していただき36頭でした。対策をしようにもイノシシのように柵を囲えばいいというわけではなく、フェンスの上に電柵を張ることや追い払う花火で被害を少しでも防止するような支援をしています。今年度、サルの群れや生態をまず調査し、伊達市に被害を与えているサルに対してどういった対策が有効か考えていきたいと思います。全国的に見ても有効打はなかなかないようですが、音、光で対策できることは考えていきたいと思います。

■道の駅の駐車場について

市 民：道の駅伊達の郷りょうぜんは、第二駐車場を設けているが、イベント時は足りなく感じる。第二駐車場も400メートルくらい歩かなければいけないため、道の駅に隣接したところに駐車場を設けていただきたい。

産業部長：おかげさまで年間120万人ほど来客があり、うれしく思います。車の置き場所について足りないという話ですが、確かにイベント時には第二駐車場まで満車になりました。道の駅は一部国土交通省の施設でもあるため、隣接箇所に駐車場を設置できるかどうかを踏まえて今後協議していきたいと思います。

■茶臼山の整備・支援について

市 民：茶臼山がとても紅葉がきれいで自慢の山だと思っている。地域住民で、茶臼山を整備しているが、整備が間に合わない状態である。松が松くい虫にやられてしまい茶色になっている。茶臼山のトイレもまともにつかえるものではない。登り口にトイレを設置する等、色々支援いただけると有難い。

産業部長：市長の説明にあった伊達市の4割の森林をどうしていくか、魅力を高めるうえで必要なことだと思います。市に何ができるかというところ、茶臼山は財産区の土地になっていると記憶しているため、財産区と相談をさせていただきたいと思っています。市有地の整備を昨年からは行っており、昨年は梁川希望の森公園を整備しました。きれいな森林を整備するように進めるため、茶臼山についても何らかの支援ができればと思います。森林環境地方税が財源として入ってきていますので、用途に関しては国と協議しながら進めたいと思います。松くい虫については地上散布をして早めに対処し、広めない対応が必要です。木を切って薬剤を塗布するやり方を、県からご教授いただき対応について考えていきます。

子育て・教育関連

■高校生の通学補助について

市 民：高校生への通学支援についてもありがたいと思っている。

健幸・福祉関連

■老人クラブの問題について

市 民：霊山町には13の老人クラブがあったが、ここ数年で老人クラブがどんどん減った。原因は、役員にやる気がないためであった。再立ち上げに関しても簡単にはできない。団体が市と県から補助金を受け取る際、事務処理が発生する。会長の平均年齢は83歳で事務処理がやれない、担当したくないといった声が出る。若い人は働いているため、60代くらいの方が会長をやっていただくと有難い。県では人数の制限を緩和したが、集会場所に行けない人がいるため人も集まらない。簡単にいかない問題であるが、市にも現状を把握していただき応援いただきたい。

まちづくり・地域振興関連

■大石小学校の利用について

市 民：大石小学校が昨年閉校したが、取り壊しをしない、校舎は使えない、体育館は利用できても水が出ない。イベントもできないとなると、グラウンドや体育館を地域で使いたいので改善願う。

教育部長：校舎は耐震性がないため壊す方向で時期を検討しています。体育館の水については、校舎の受水槽にあげてから体育館に引き込んでいたが、ポンプが壊れてしまったため、違う水の引き込み方を現在検討しているところです。

■マスメディアへの露出について

市 民：移住定住の促進のために魅力の発信を強化する話があったが、どういった方法をとるか。マスメディアを利用して、特に市長にはテレビにたくさん出てPRしていただければと思う。

総務部長：市にて取材に来ていただけるよう発信しています。最近でいうとイオン進出で市長がインタビューを受けました。お金のかからない範囲で、伊達市に取材に来ていただけるような工夫をしていきます。皆さんもスマホをお持ちの方で、「You Tube」を開いていただくと、定例記者会見の様子や市内の魅力発信動画等が無料で見られますのでご覧になっていただければと思います。テレビだけでなく、見たいときに見られる動画配信等でもPRしていきたいと思っています。

■屯所残地の有効活用について

市 民：山戸田地区には約110件の世帯があり、今年、グラウンドがあった中央集会所に屯所ができる。今後、グラウンドの有効活用は難しいが、山戸田地区はイチゴが盛んで、季節によってはイチゴ狩り時の駐車場となる。唯一の山戸田の集まりの場で共有していきたいが、ぬかるみの箇所が多い。有効活用できるように市にもご協力いただきたい。

市民生活部長：屯所を建てた残地については、できるだけ地元の方に有効活用していただけるように地元と関係部署で協議させていただきたいと思いますので、引き続きよろしくをお願いします。

■移住定住・過疎地域の対策について

市 民：人口対策として、保原に工業団地、伊達に大型商業施設がくるように、霊山にも何か住宅団地のようなものに取り組んでいただきたい。

未来政策部長：霊山、月舘が過疎地域といわれますが、今年度から梁川も過疎地域に追加されたことで、新たな過疎計画をつくっています。今までは「空き家バンク」といった取り組みをしてきましたが、今年度から小規模の農地付きの空き家バンクもできるようにしました。農家要件があり、なかなか農地が使えませんでした。農業委員会の許可があれば空き家に農地を付加できることとなりました。ほかにも対策として新婚世帯で条件が合えば、国の補助制度として30万円支給するものがありますが、伊達市独自のものが条件がありますが過疎地域のみ更に30万円追加で支給する取り組みを行っています。色々な支援制度にメリハリをつけ、中山間地域になるべく住んでもらうように試行錯誤しています。住宅団地に関しては大きな話になってしまうため、高速道路等の条件が整った良いところをPRして、事業者が自発的に来ていただけるようにPR活動に力を入れていきたいと思っています。

市 民：ワンストップとして、移住定住に関して一つの課で集中してやっていただけると効果的だと思う。

未来政策部長：周知不足で申し訳ありません。伊達市にも未来政策部協働まちづくり課で移住定住に関する係があります。また、かつて地域おこし支援員として働いていた方が、NPO法人を作り移住コンシェルジュという形で自由に相談できるようになっています。人材についても拡大できるものについては確保し、移住定住をどんどん進めてまいります。

■まちづくりについて

市 民：自治協議会を中心に掛田地域のまちづくりを行っている。学生による復興支援事業として東京明治大学の学生が見えられた。福島交通の掛田駅を改修中である現状で、まちづくりの支援員を配置し、街づくりの相談ができると良い。

未来政策部長：制度をどんどん活用していただいて、我々も発信していきたいと思っています。福島交通ではチンチン電車に関する歴史資料を展示したいという話を聞いています。霊山こどもの村にあるチンチン電車についても、掛田駅に持ってきて活用できないかということで譲ってほしいと正式に申し出がありました。市としては協力していきたいと思っています。サポーターについては、どういった人を雇用すべきか内部でも検討したいと思っています。

建設・土木関連

■市道脇の除草作業について

市 民：泉原地区は梁川町と接しており、梁川町白根に通じる市道がある。夏場に雑草が伸び、通行の邪魔になる時がある。以前から地域の人がボランティアで除草等の作業をしている。合併前は草刈り機の油代や飲料代の支援があったが、合併後そういった支援がなくなった。地域活性化のために、今後は支援をいただきたい。

未来政策部長：合併後、行政区の活動交付金等の見直しを進めてきましたが、現実的に総額を増やすことは制約があり厳しい状況です。地域への活動への支援を一律が良いのか、頑張っている箇所に手厚くすべきか見直しを今後していきたいと思っています。市民の皆さんの意見を聞きながら、各地域への支援のバランスを再検討したいと思います。

建設部長：道路の維持管理をお手伝いいただき誠に感謝しています。道路維持として、要請があれば必要に応じて除草等の対応を現地確認しながら致します。今後も、できる範囲で無理をなさらずにご協力のほどよろしくお願いします。

■小国川の土砂撤去について

市 民：小国川の土砂を撤去いただき、とても良い川になった。上から見て魚がいることを確認すると、対応いただき良かったと思う。感謝申し上げる。

■掛田小国線の修復について

市 民：高速道路工事に伴い、掛田小国線がだいぶ傷み、今年の春頃に修復いただいたが、横断溝に段差が生じ、農産物の運搬時に不便が生じた。建設部へ相談すると国へ修復を依頼し、すぐに段差を解消いただいたことにお礼を言う。